



前列右より
川口 正徳議員
竹内 照夫議員
竹内 基二議員
草野 聖地議員
後列右より
近藤 眞弘議員
仲野 弘子議員
寺田 英幸議員

幹事長 竹内 照夫

新春の候、市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
平素は、湖誠会に對しまして、温かい御支援と御厚情を賜り、心より感謝を申し上げます。
昨年は、1月から感染の兆候を見せた新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中に蔓延し、国内では4月に全都道府県を対象とした緊急事態宣言が政府から発出され、7月に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックが1年延期されるなど、未曾有の混乱を経験しました。
本市においても、感染防止と地域経済の再生に向け、佐藤市長を筆頭に、職員一丸となって絶え間のない対策を講じられたところであり、未だ収束の様相を呈しないコロナ禍において、今後はさらなる感染の長期化を見据え、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を想定した新しい生活様式の確立と医療体制の拡充に向け、引き続き支援していきたいと考えております。

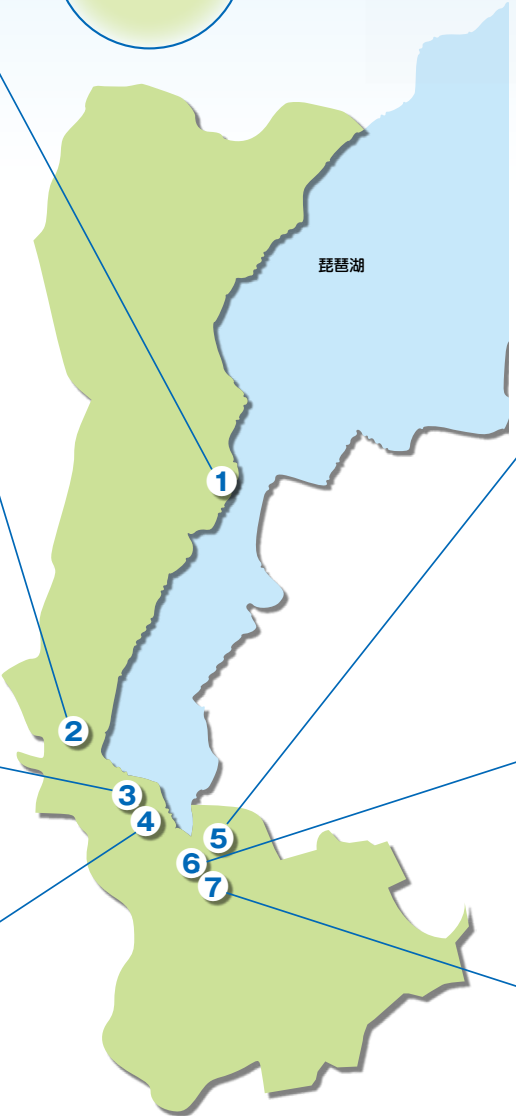
さて、去る11月通常会議では、補正予算及び条例関係などを含む計29議案を審査し、令和3年度から4年間を計画期間とする本市総合計画・第2期実行計画や市立大津市民病院の中期目標の策定及び大津市・志賀町合併建設計画の変更に加え、本市の新たな独自施策である新生児等特別定額給付金を含めた感染症対策に伴う各種給付金の追加経費や市民センター窓口での待ち時間短縮等に資する受付番号発券機種の導入費用などを含む総額約32億6千万円の補正予算を議決いたしました。
湖誠会では、今後も新型コロナウイルス対策に必要な施策を推進するとともに、かねてより要望している道路インフラ整備、社会保障と教育環境の充実を目指し、「夢がふれるまち大津」の実現に向け、行政と連携し、所属議員が一丸となって尽力してまいります。
今後とも湖誠会ならびに会派所属議員に対し、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします

ごあいさつ



湖誠会は、地域の皆様のお声を大切に大津の将来を創造します

大津市MAP



① 仲野 弘子



堅田学区では仰木口交差点から東側へ延長する都市計画道路3.5.101号が通学路の安全や観光振興に寄与する道路となるよう早期の完成を目指し、今後とも皆様のご意見もお聞きしながら、地域はもとより、大津市全体の安心・安全なまちづくりを目指し、誠心誠意取り組んで参ります。

② 草野 聖地

幹事(会計)



どのような状況にあっても、子どもたちの声が聞こえ、笑顔が見られれば、地域が元気になります。そして、それが未来につながります。地域の元気のためにできることを考え、最善を尽くしてまいりますので、会派へのご支援をよろしくお願いいたします。
あたらしい生活様式を楽しめるように、皆さんとともに歩んでいきましょう。

③ 竹内 照夫

幹事長



【Otsu Re Born】
コロナ禍の下で、私たちの身近な暮らしも大きく揺らいでいます。そんな時代だからこそ、「優しい心」「厳しい心」「ときめく心」「豊かな心」「美しい心」を忘れず、「大津に心をとりもどしたい」と思います。そして今年は、市民の皆様とともに、大津を生まれ変わらせるために全力を尽くしてまいります。

④ 竹内 基二

副幹事長



コロナ禍において献身的に活動しておられる医療従事者を支え、総合的な感染防止対策を充実します。中小企業者がコロナ不況を乗り越えられるよう支援策を拡充させます。交通事故や犯罪からお年寄りや子どもたちを守るために、交通安全施設の整備を進めます。大津の未来に希望が持てるような新たな政策提案をしてまいります。

⑤ 近藤 眞弘



コロナ禍の下、これまでの経験を活かして市の発展と市民のみなさまが安全で安心して暮らせる大津づくりに取り組むとともに、将来を担ってくれる子どもたちが夢と希望をもって、高齢者の方が健やかに暮らせる活気となごみのある地域づくりを目指すため、みなさまのお声をお聞きし全力を傾注してまいります。

⑥ 寺田 英幸



【現場の声が大切！】
新型コロナウイルス感染症防止対策を図り、新しい生活様式に順応される大津市民の心身を支え、日々の暮らしを守っていただける町づくりに向けて取り組みます。
地元の瀬田唐橋のように、人と人の交流や絆づくりの担い手として「架け橋になる」ように行動します。そして、これからも大津、地元の声を大切に、日々「新利他を尽くす」政治をします。

⑦ 川口 正徳

政調会長



まち作りの主役は市民の皆様です。未だかつて経験したことのない感染症等の対応に市民の皆様も大変ご苦労いただいていると思います。
一日も早く平穏な日常を取り戻し、住み慣れた地域において安心して暮らせるよう、負託を受けた者として、大津市とともに責務を果たして参ります。

11月通常会議一般質問

※質問順に掲載しています。

Q 竹内 基二 議員

市内の産業振興や中小企業振興に向けた方策について

A 本市では、商工団体等提案事業補助金を活用したプレミアム商品券等により一時的な商店街の需要喚起に繋がったが、引き続き小規模事業者を取り巻く状況は厳しいと予想される。中小企業振興計画の見直しや条例化の検討と並行し、市内商工団体等とも連携した支援策の拡充に取り組みむべきと考えるが、見解を伺う。

A 本市に集積している商工会や商工会議所、商店街連盟等の支援機関との連携は重要かつ効果的だと考える。これまでも中小企業振興に関する円卓会議で情報共有等を図ってきたが、今後は市内事業者身近な存在である商工団体等の機能を活かすため、更に連携を推進していく。

Q 川口 正徳 議員

地域公共交通課題地域における公共交通の確保について

A バス路線の維持に向けた上田上地域での実証実験は、利用者が伸び悩んでいる原因、課題、運行便数、時間帯、運行経路、バス利用をやめた人のニーズを把握し、コロナ禍の状況も踏まえ、再度の実証実験の可能性を検証すべきと考えるが、見解を伺う。

A

利用者が伸びない原因は人口減少や高齢化に加え、福祉施設の送迎サービスなど、路線バス以外の移動手段の多様化が考えられる。コロナ禍の影響により今年度の実証実験の評価は困難であるが、引き続き再度の実証実験の必要性について地域とバス事業者と共に協議し、路線バスに代わる移動手段も提案して交通課題解消に取り組む。

Q 寺田 英幸 議員

家庭系ごみ収集業務の現状と対策について

A 人口減少や少子高齢化に伴い、ごみ収集運搬事業者は深刻な人手不足であり、公共サービスの質の低下や待遇改善に伴う委託料の増額が懸念される。そこで、公共サービスを受ける側の市民や事業者の声を聞きながらデジタル化も視野に入れ、安定した業務の継続に向けて議論を深めるべきと考えるが、見解を伺う。

A ごみ収集運搬事業者の現状に対応すべく、ごみ分別アプリを活用した収集日や分別方法の啓発を行い、大型ごみの収集や予約についても、現在LINEを使ったシステムを構築中である。今後もスマートフォンを活用した積極的な情報発信について、他都市の事例も参考にしながら取り組んでいく。



北部クリーンセンター（建設中）



環境美化センター（建設中）



大津市ごみ分別アプリ「分けなび」



質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。

大戸川ダム整備の必要性を確認

令和2年11月23日

（月）、京都市内のホテルにて自民党京都府連と滋賀県連が合同で、「淀川水系（京滋地区）」における治水対策推進についての勉強会を開催し国会議員や県議会と府議会の議員などおよそ100名が参加し、湖誠会からも6名が参加しました。

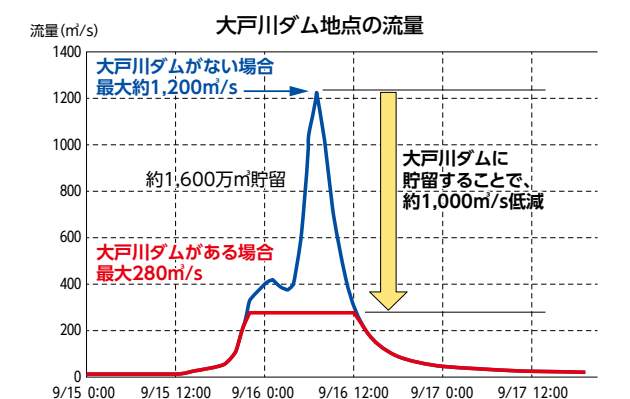


勉強会は、国土交通省近畿地方整備局の部長に大戸川ダムの経緯や治水効果などについて講演していただき、その後、多くの質問がされ、活発な会となりました。来賓として参加された三日月大造知事、京都府の西脇隆俊知事も流域を守る大戸川ダム整備について前向きな考えを話されました。

大戸川ダムの整備は、下流の天ヶ瀬ダムを守ることに伴い、結果として南郷洗堰の全閉をする必要が少なくなることから、瀬田川、宇治川流域の住民にとって必要であることをあらためて確認しました。

《大戸川ダムによる洪水調節の効果》

流域が平均的な湿潤状態で、平成25年台風18号が発生した場合に、大戸川ダムが整備されていた場合、最大約1,200m³/sの流量を280m³/sに低減させることが可能。



湖岸に水上機が着水



近江大橋の上空



琵琶湖の上空から大津市役所を臨む

約50年前に湖上で運用されていた水上飛行機による遊覧飛行を復活させるべく、当日は、モニターツアーの参加者など22人が搭乗され、関西国際空港からの運航や大津・京都上空の遊覧飛行を体験されました。

今後は、商業運行による富裕層向けの誘客やビジネス目的の新たな交通手段としての活用を目的に、ウィズ・コロナ時代における観光モデルの形成を目指すとしています。



約50年前の湖岸の様子



本市の取り組み

半世紀ぶり水上機の実証飛行

本市は、竣工から20年以上経過したなぎさ公園の魅力と賑わいを創出することを目的に「なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト」を立ち上げ、その一環として11月24日（火）に琵琶湖で水上飛行機の実証実験を行いました。